

嘉陵記行

貳編九

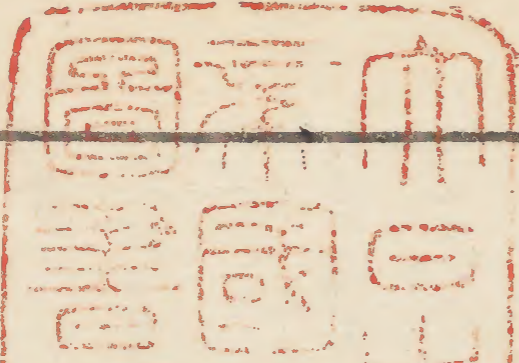
目録

牛の山前
木下川業師
冥至天神
中田信行
平井村聖天
柴田村聖天
小笠原村
隅田川、糸掛
牛田村、東野
吾妻能本林
三福寺
宇七村
才徳國彦
尾村

和書門	二九二一
函號	一〇四一
冊	七

内閣文庫	
番號	和 29201
冊數	20 (5)
函號	177 1056





嘉陵記行武之卷目錄

牛の品名

六九三一番

明治十五年購求

木下川榮師

隅田川八系詩秋

宮屋天神

牛田北榮師

半田稻荷

吾妻社表

車井村聖天

正福寺

柴波村帝釈天

宮吉田村

下総國府表

小倉忠牧

嘉祥元年貳之卷

外の系に係る記



文化辛未年二月十五日牛嶋牛の御所開帳の請人神祇衣冠の像

と画の縁起小卒六代清和天皇貞観二年庚辰九月慈覚大師

聖徳太子の素盞烏言や勸請の事牛頭を裁て諸悪災

難をくわしいのとの神託をまゝく牛御所の稱を考へたり

又慈覚の弟子良本阿闍梨とて一字を後々本地大日如来

と造立し本尊とて又石佛の秘奥を刻て良本の號を大師と登

心す良本是より明王院と号し法華十部と後誦し彼

石造の新造を供養佛とて又五十七代陽成院の御時清和

第七皇子為皇太子遷居此地之費乃其本之れを牛御本の地
 葬りて置るはありし石佛の新地を立養和元年辛丑添二位
 松朝公の社を經營し千葉常胤田園を寄附す小條氏直
 老臣大寺寺景秀より先親の妙く神代を寄附す今本社
 の所ある供養の地是也天文七戌戌年六月廿八日 後奈良帝牛御本
 と勅旨を記成下

右縁起亦仍本のありしを記

長三尺許

表



一尺三寸許

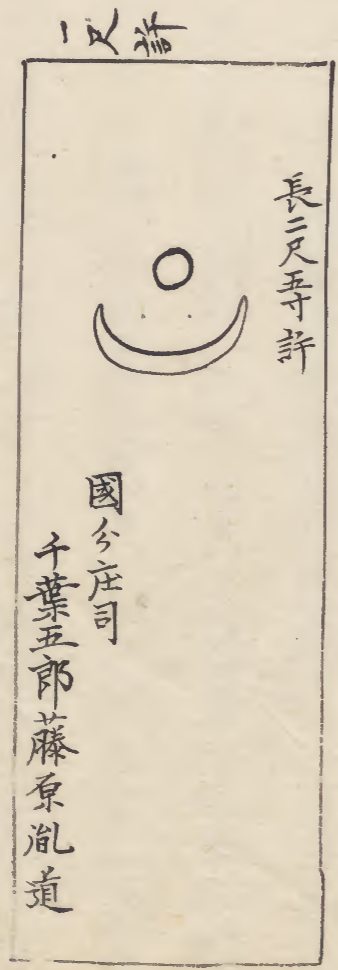
裏

奉造立釋迦佛像 一軀
 貞觀十七己未天
 三月日
 法華子部
 明王院

厚サ一寸許

地木綿
 白紋黒

長三尺許



國分庄司
 千葉五郎藤原胤道

盛衰記三十五範頼ノ旗下ニ國府五郎胤家トテ胤道ハ其後胤

梅若塚 勁齋筆記

葛飾郡隅田村小梅柳山隅田院木母寺の御堂の母より
柳一株有り梅若丸の墓といひて今もその柳ハれく株のこ
り川の頃より柳此若木成柱をてこれも又梁と古殿を祀
ふはぬめり柳の下小祠有り梅若山王権現と稱して神と
ありし享保十三年梅若丸の古事年忌として系訪の人等
集りてその後年忌よりなる度より画像を相りてむ
享保十三年よりいへり人皇太子代花山天皇寛和
二年丙戌三月十六日卯ふり吉田少将維貞の子ありしとも

維貞公の補任もるは梅若公維貞の子といへり何れの虫
なり世よある交を詠せしこ化一として授たまふは此
い成りしれやゆ中これよりいれも古くよりいひてなること
跡と人此口碑との跡あり梅若公指の物といへり象牙の骨此
廟の古風なり寺よりいへり不将守信安信三人のむ梅若
丸の像木母寺の風杯掛幅を彫りてありて替替ハ大徳寺の法書
和者なり又今信尋公のりありて隅田川遊覧のり
相舟ありしこと

こして是れ梅若公の墓に於てありしと云ふは隅田川のり

有極川幸仁親王の御草も有り

陽田川三や古の川にふるまふ神やまもまの祭こししりぬみ詠めを
又信尋公和草一して木母寺の三大字なり皆函室の什物とぬて今ふ
傳ふやうにけがき流は寺内のまぬられうを草傳くまを草
あつむむして草屋の新溜あれとあのみ草生ひく弁の垣を
とほれて田の面んつとこれ草あつくありつしよ今年癸未
の春の海へ夏に於て張子十五六年と唐のふも極大よか
らうて堂のつくま門のつは昔よこむいていふく石城くま塔
まこころし草よぬらう都石まてつらありまをみるまを初

れおのめりしん我ましとるを神と教風系の偽地とぬぬは頃
陸務親の入蜀記とつとま因云 至太平興國寺門前席蔭本
小澗比年菴以塼但如一溝無復古趣予勸其主僧法才
去塼便少近自然不知能用我言否と有り唐山文雅とる
らする邦なれとも又ののまを修傳ありんやあ母とやと
嗟嘆して止

こハ癸酉の年梅若初つ井麻のけりまをいふ

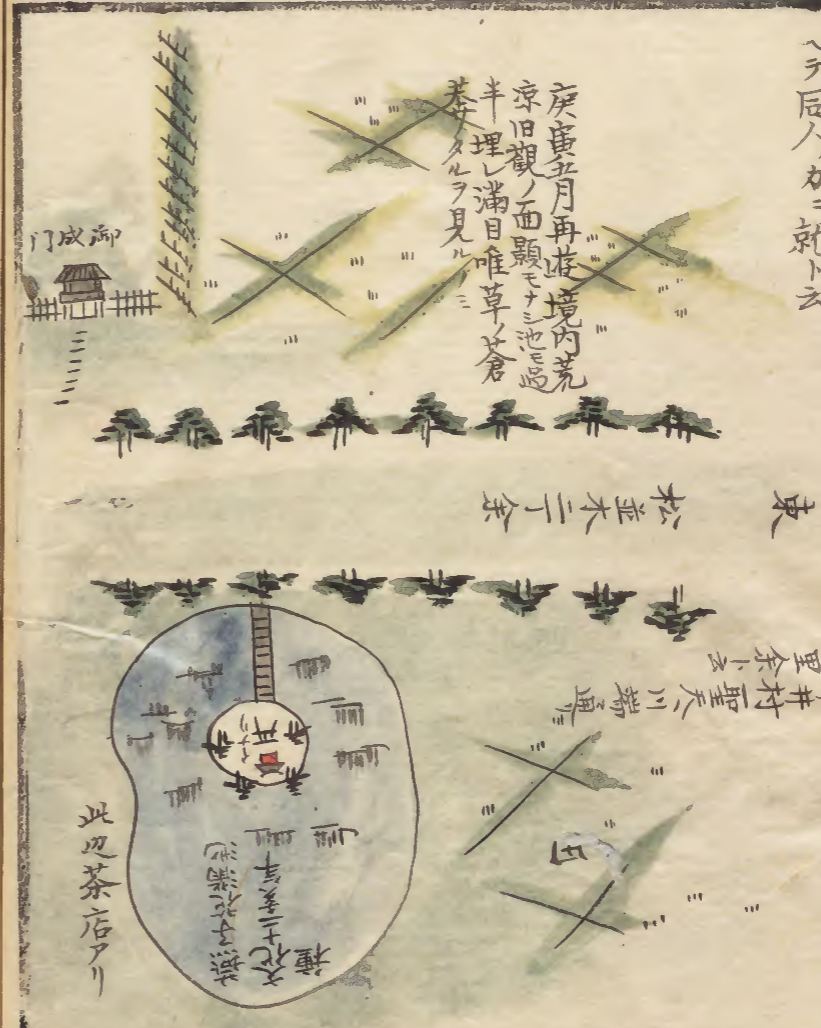
黃州勝景

徐時作閑居偶錄曰黃州沿灘水而上自東至南一帶長堤
村墟籬落新續隱見居人多蒔花木菓蔬作生計江梅千
樹溪桃萬株香雪落紅雨隨飛綠圃香畦菜花鋪地黃白
相間其深樾密林為城內大家間房別館不一其處參差
掩映皆點染不俗春陽踏青遊人如蟻徐行後步如在山
陰道上

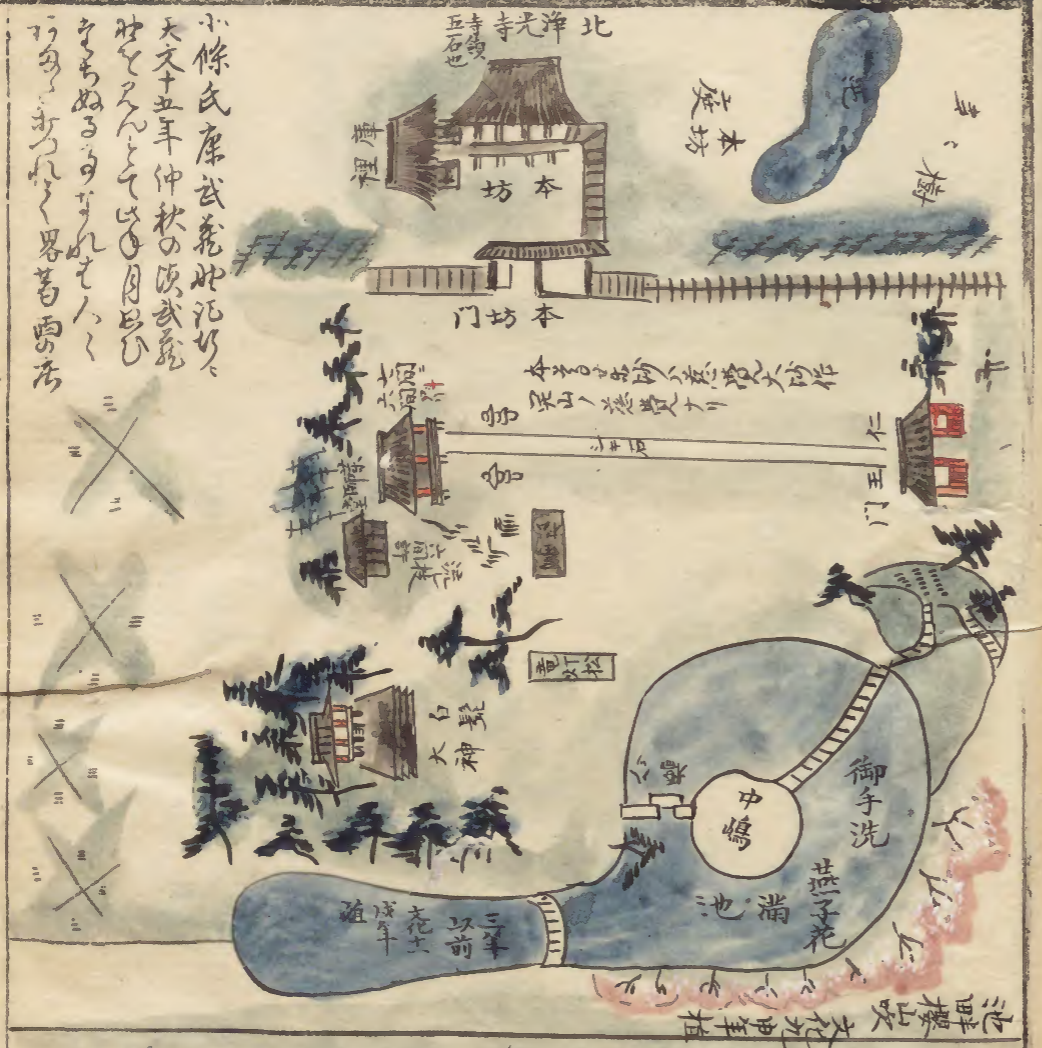
これ一條隅田川の傍景を彷彿とす 劫齋遊記

本下川草師 青龍山淨光寺境内畷
 淨光寺境内及川端六ヶ所間
 植櫻石橋跡を訪寄進ス
 山吹カキツハタ假山池橋死ス
 ハテ同ハカニ就ト云

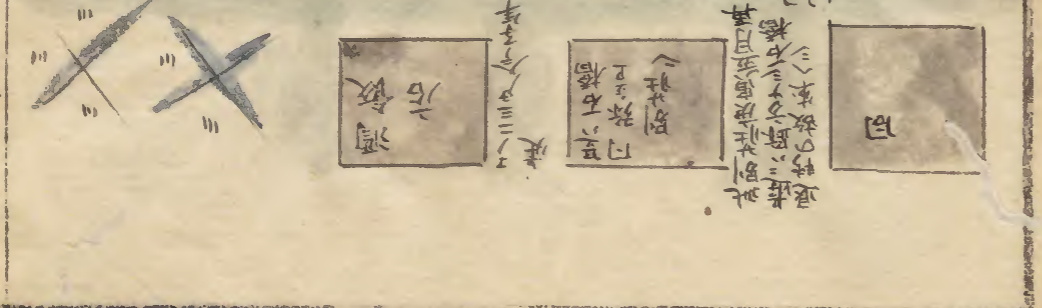
佐友社在馬口遊
 文化十三子年三月十日遊
 文政十三庚寅五月五日再遊子より十五年の後ニ



屋民



小條氏庶武義此池
 天文十五年仲秋の頃武義
 時々んとては月日
 ちもぬるむすれと人
 巧多しおれく畷昔西有



津光寺のものを... 津光寺境内の高井... 津光寺境内の高井...
 津光寺境内の高井... 津光寺境内の高井...
 津光寺境内の高井... 津光寺境内の高井...
 津光寺境内の高井... 津光寺境内の高井...

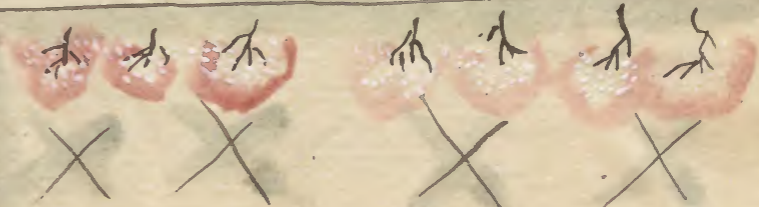
津光寺境内の高井津南西平

又此中三年... 津光寺境内の高井...
 又此中三年... 津光寺境内の高井...
 又此中三年... 津光寺境内の高井...
 又此中三年... 津光寺境内の高井...

店酒 飯

成不木... 成不木...
 成不木... 成不木...
 成不木... 成不木...

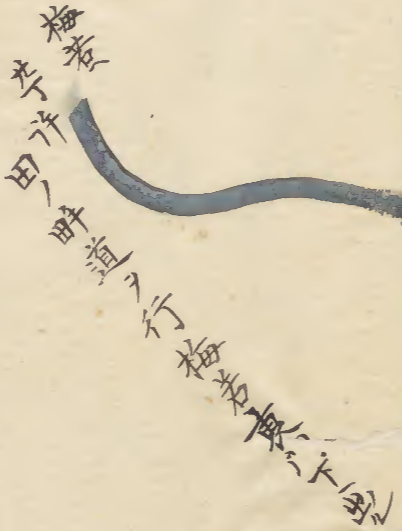
西時梅... 西時梅...
 西時梅... 西時梅...
 西時梅... 西時梅...



南

十

丁三十三 天... 丁三十三 天...
 丁三十三 天... 丁三十三 天...
 丁三十三 天... 丁三十三 天...



四

亀井戸天神裏塚橋... 地理方位畧九ノ如シ
 亀井戸天神裏塚橋... 地理方位畧九ノ如シ
 亀井戸天神裏塚橋... 地理方位畧九ノ如シ



木下川薬師子三月二十日申帳延て四月五日ある某師の惠心の徳の
の古佛の帳と奉庇と申すより終る乳の身の上の方と尋す
大廿八九某の思の如く冥宝より永世三年の寄附状なり年月
日の不家定判りし家定は何人なる哉と問ふに決意すを備言
の後増陽より俸光寺熱門なる凡そ二十丁と云は道南より
水と云うて一重流と云ふことなり申すに於てある中めは林木
のありし儀某寺の塔元の道の東時より川なり二丁餘引舟
あり爰此川端七八丁の留不極如右中と極某師境内に
極心吹池あり其葉子を極由なる橋由申すより者極

不こと云極の年の
島中記也熱門を申す北より四方の路を行屈曲盤地

して二十丁申す極善の境ありこの路は極の
御所よりなり東の方仁門

糸松の並木と出難れ東南より隅田村に極善庭の池の向より

松あり松の下より古碑あり頼極字と云ふ事寛治二年刻と

左右に成申す三日と云うて刻む又庭隅に古墓在るの五重塔碑在

二月寺中より極出すといふ

室治の後保元元年号丁未即位の元年戊申の二年に去年の條に頼

極極と極極舎頼極の子頼嗣の如く建長元年己酉の元年に

文化十三丙子年迄五百六十九年と成

高サ地面ヨリ二尺
寺許圍サ一尺余
厚サ三寸許南面
ニ立テリ

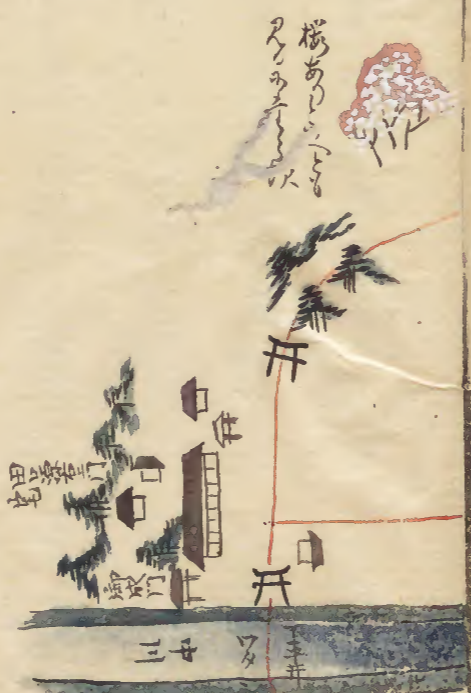
死
戊三月
寶治二年
申三日

石の五重塔を河代の人の墓と云ふ一池上本所はあひ日蓮の墓の所
にある池上右少の志夫婦の五重の石塔と云ふの塔とお類す錦糸
塔此の塔もこれ一極に似る所のあり
寺中紫竹林ありて其の右に茶室ありて所を都立と云ふ外は常毛
の林ハ毒竹と云ふ

平井木下川方位畧



平井聖天境内畵



隅田川和歌集

名うとりの心まるとし舞はる我の心はまはるやと
 壬辰業平
 秋のふく人をまはる如法まはるまはる此れはこれの心
 友東俊成
 限るをくぬぬけりぬ隅田がまはるわくをえり
 後醍醐院
 〇これ又まはるまはるのまはるは清くまはるまはるまはる
 鳥丸光彦
 事とひすこいぬ此れまはるまはるは心まはるまはる
 小侍位
 心あつてもまはるまはるまはるのまはるまはる
 内大臣実隆
 ぬりぬすまはるまはるまはるまはるまはるまはる
 源信位叔政
 〇此れまはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる
 法親王及光

名まはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる
 為家
 〇名まはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる
 後中氏成
 事とひすこいぬ此れまはるまはるまはるまはる
 後中羽院
 都まはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる
 信長信光
 隅田川まはるまはるまはるまはるまはるまはる
 友 登方
 〇まはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる
 友 実高
 名まはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる
 法親王及光
 名まはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる
 大皇太后
 大徳
 〇まはるまはるまはるまはるまはるまはるまはる
 友 隆業

後柏原院
 了書
 隅田川
 後
 後
 後
 後
 後
 後
 後

信
 墨
 信
 三
 三
 改
 二
 信
 信
 〇

隅田川社月

氷輪関屋照松間
 稀見隅田萬頃用
 秋色為誰移暮柳
 支今夜温雲鬢
 隅田川社月

君正落丁

松間雪丁眼相猜昆道擬畫回閑子細音未霜翰動蓬蒿氣裏又飛回
帰ゆくこひをきく海の里にまよふ在くわたりをきく蓬生

湖入夕照

湖入沙汀湖激流斜陽影動竹影出隔江終日無人到只合魚網漁舟
川波を汀よりあふみよ日入やと山さかきく夕の光り

橋場夜雨

橋場廣陌自出獨望黄昏立渡頭添得滿湘林暮思夜未風雨一葉舟
三月のあけぼの橋場の原に古き舟をうつるあけぼの

待乳晴嵐

虎迹埋没聖天宮直逐狂波江上風時至隅田湖霧後金龜山頭日頭紅
待乳心悩めあしもゆわくえてすまゝ川原よりあけぼの

駒形帰帆

高船帰帆掛暮天西風吹送駒形辺湖平安暮家猶遠舟子以竿肆市廊
一こゝろのそよ風弱き川波をうつるつらみ海

沙崎晚鐘

鐘響江天波激時客船宴罷撥眉掃一戸何安蒼跡畔斜陽影裡自送離
くちこむる客もさきよ海傍に枯るれくゆく入お

富士暮雪

日暮水光波底清
富士戴雪影正核
隅田湖面長芳術
縮得駿陽百里視

月夜雪影正核
隅田湖面長芳術
縮得駿陽百里視



庫	文	閣	內
七	九	和	
五	二	書	
一	〇		
七	二		
架	冊	號	類